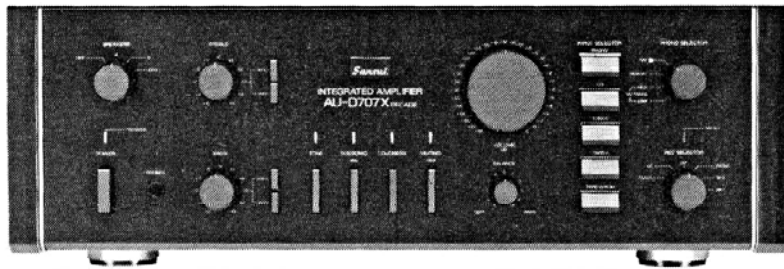


# AU-D707X DECADE

ステレオプリメインアンプ

## 取扱説明書



※ご使用前に必ずお読みください。

*Sansui*

このたびは、サンスイ製品をお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり本機の性能を十分に発揮させてご愛用くださいますようお願いいたします。

※説明の便宜上、イラストは原型と異なることがあります。

目次	
ご使用になる前に	3
接続	4
各部の名称と説明	6
操作	8
トラブルと修理依頼	11
規格	12

## ■アフターサービスについて

**保証書**——この製品には保証書が添付されています。「お買い上げ店の捺印、購入年月日」などの記入及び記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

所定事項が記入されていない場合や紛失した場合は保証期間中でも保証が無効となります。

**保証期間**——この製品はお買い上げの日より1年間です。正常な使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合は保証書に記載されている当社修理規定に基づき、修理いたします。

**保証期間経過後の修理**——当社消費者相談窓口またはお買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

この製品の補修用性能部品<sup>\*1</sup>の最低保有期間は、製造打ち切り後8年<sup>\*2</sup>です。

\*1 補修用性能部品とは、この製品の機能を維持するために必要な部品です。

\*2 この期間は、通商産業省の指導によるものです。

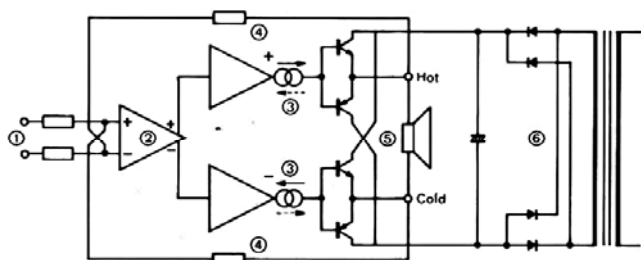
この取扱説明書は保証書、サービスネットワークと一緒に大切に保存してください。万一ご使用中にわからないことや不具合を生じたときにお役にたちます。

## 特長

### ツインダイヤモンド・バランスサーキット

理想の伝送・増幅に挑戦したツインダイヤモンド・バランスサーキットは、次の6大技術で構成されています。

- ① 入力差動バランス構成
  - ② プリドライブ段—ツインダイヤモンド・バランス差動回路
  - ③ 伝送—バランス電流ドライブ方式
  - ④ NFB—バランス・フィードバック構成
  - ⑤ 出力バランス構成
  - ⑥ 電源部—バランス電源方式
- ⊕側、⊖側の信号系にそれぞれのアンプを設け、アースに関係なくスピーカーをバランスドライブすることにより、従来の回路では避けられなかった音質上の問題点、例えばアース回路に潜在するIHM歪、電源トランスやコンデンサーからの電磁波ノイズやアース誘導ノイズなどが大幅に改善されています。



### イコライザーアンプとMCトランス

イコライザーアンプは初段にローノイズのデュアルFETを使用し、差動2段とカレントミラー付電流差動によるプッシュプルドライブ純コンプリメンタリーSEPP回路を採用し、RIAA偏差を±0.2dB以内に抑え、最大許容入力300mV以上(MM=1kHz)、SN比が90dB以上(MM)の優れた特性を得ています。

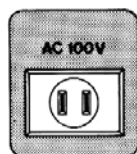
また、MCトランスには磁気特性の優れたパーマロイコアを使用し、LOWとHIGHのゲイン切り換えを可能にしたことにより、あらゆるMCカートリッジがご使用になれます。

### 豊富な付属機能

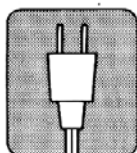
スピーカーやカートリッジの周波数特性や部屋の音響特性などに応じて音質調整ができるトーンコントロール、テープからテープへのコピーやレコード演奏を楽しみながら放送を録音できる録音セレクター、超低域の雑音をカットするサブソニックスイッチ、一時的に音量を小さくするときに便利なミュートスイッチ、小音量時の低音と高音の不足感を補うラウドネススイッチなどの豊富な機能を備えています。

# ご使用になる前に

## 次の事項にご注意ください



**100V交流(AC)電源で**……………  
この製品は100V専用です。クーラーなどの200V電源には絶対に接続しないでください。故障や火災の原因になり、危険です。また、直流(DC)電源ではご使用になれません。



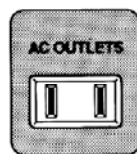
**電源コードについて**……………  
コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。また、濡れた手で電源プラグの抜き差しを行うと感電する場合がありますので、絶対におやめください。  
●長時間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。



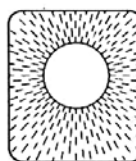
**ケースや底板をはずさないで**……………  
内部の点検や調整は、故障や感電事故の原因になります。内部に触れることは絶対にしないでください。また、内部を改造した場合の性能の劣化については保証いたしません。



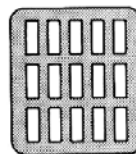
**内部に異物が**……………  
内部にヘアピンや硬貨などの金属物が入った場合や誤って水がかかった場合は、電源プラグをコンセントから抜き、最寄りの当社サービス窓口または販売店にご相談ください。そのままでご使用になりますと故障や感電事故の原因になります。



**ACコンセントについて**……………  
背面に備えてあるACコンセント(AC OUTLETS)の供給できる最大電力容量はSWITCHEDが100W、UNSWITCHEDが合計で250Wです。指定容量以上の消費電力がある電気製品をつなぐと非常に危険です。接続する前に必ず消費電力を確認してください。また、ACコンセントには100Vの電圧がかかっています。ヘアピンなどの金属物を差し込むと感電しますから絶対におやめください。特にお子様へのご注意をお願いします。



**設置上の注意**……………  
次のような場所には設置しないでください。性能の劣化や故障の原因になります。  
●暖房器具などの発熱物の近く。  
●直射日光の当たる場所。  
●湿気や水分のある場所。  
●風通しが悪く、ホコリの多い場所。  
●振動や傾斜のある不安定な場所。



**放熱について**……………  
本機は内部でかなりの熱を発生するため、上下の通風孔により空気の対流を効果的に利用し、放熱が行われるように設計されています。上面のスペースを十分に取り、下から上への通風を良くしてください。上に物を置いたり、柔かな敷物の上に本機を置くと放熱効果を悪くする場合がありますのでご注意ください。通風が悪く、放熱が十分でないとき内部温度が異常に上昇し、故障の原因になる場合があります。



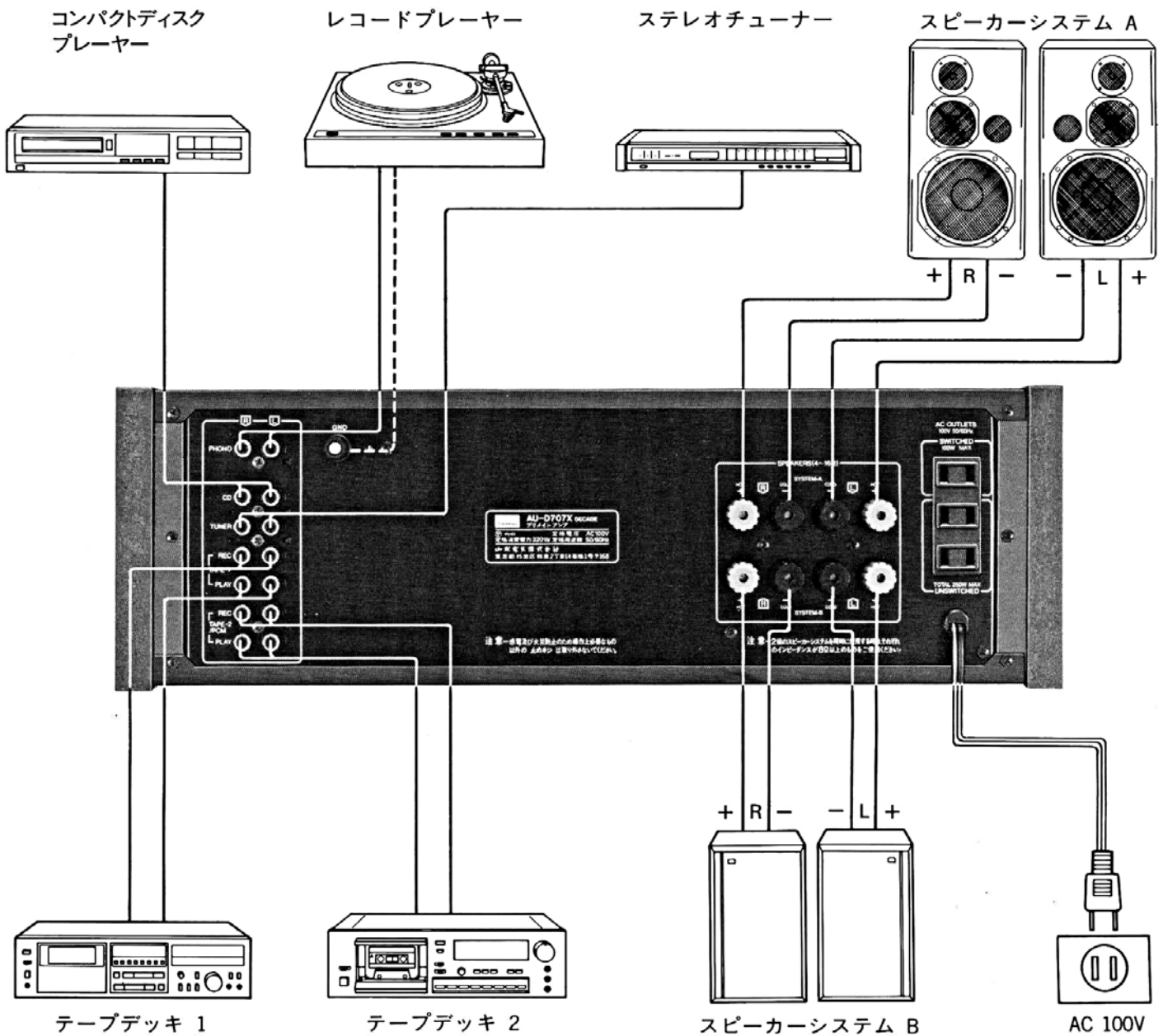
**シンナーなどでふかないで**……………  
パネルやケースは、ときどき柔かい布でからぶきしてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどの化学薬品を使用すると表面が侵され、文字が消えたり、外装ムラになることがありますから絶対に使わないでください。また、スプレー式の殺虫剤などもかからないようにご注意ください。



**音のエチケット**……………  
音量は時や場所に応じて適度な大きさに調整してください。特に、静かな夜間は小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には音量に気を配りましょう。窓をしめたりヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

このアンプは水平に置いたときに最大の放熱効果を発揮します。立てたり、傾けたりしたままでは使用しないでください。

# 接続



## 接続上の注意

- 接続の際は、電源プラグをコンセントから抜くか、パワースイッチを押して電源を切ってから行ってください。
- 接続する前に、このアンプに接続するオーディオ製品の取扱説明書をよくお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめて、正しく(LとL、RとR)接続してください。
- プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は雑音発生の原因になります。
- 本機は4アンプ・バランス構成になっているため、スピーカー端子のCOLD(-)端子同士を共通にしたり、他の装置のアース(GND)端子とCOLD(-)端子を接続することはおやめください。

## ACコンセントについて

チューナーやレコードプレーヤーなど、このアンプに接続した装置の電源プラグを差し込んでおくとう便利です。

**SWITCHED(容量100W)**: パワースイッチに連動して電源の供給がON-OFFされます。

**UNSWITCHED(合計容量250W)**: パワースイッチに関係なく、常に電源が供給されています。

- 接続する装置の消費電力の合計が、指定電力容量を越えると危険です。接続する前に消費電力を確認してください。

## 電源コードの極性表示について

本機の電源コードには片側に白線が印刷されています。これは電源の極性を表示したもので、白線側をコンセントのホット側(接地されていない方)に接続すると、ノイズやハムが低減し、音質が良くなる場合があります。

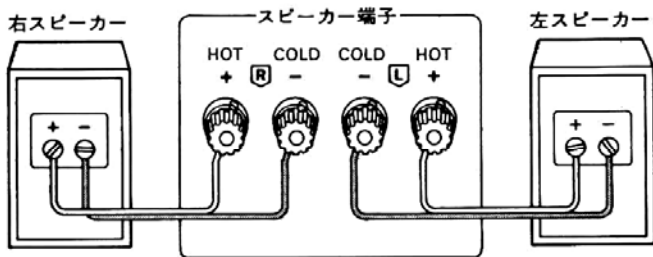
## ■ スピーカーシステムの接続

スピーカーシステムを接続するスピーカー(SPEAKERS)端子は2組あります。スピーカーシステムを1組だけ接続する場合はSYSTEM-A端子をご利用ください。

正面から見て左側に置くスピーカーシステムをL端子に、右側に置くスピーカーシステムをR端子に接続してください。

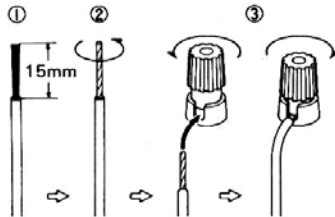
また、スピーカー端子とスピーカーシステムは、必ず同じ極性(+と+, -と-)を接続してください。左右いずれかの極性を間違えて接続すると、中央の音が抜けたようになり楽器の位置がはつきりせず、ステレオの方向感をそそないますのでご注意ください。

●接続の際、スピーカーコードの芯線が端子からはみだしたりして他の端子に接触しないように注意してください。



### スピーカーコードの接続

- ①コードの端の被覆をむく。
- ②芯線をよじる。
- ③スピーカー端子をゆるめ、コードの芯線部分を差し込み、端子を締める。

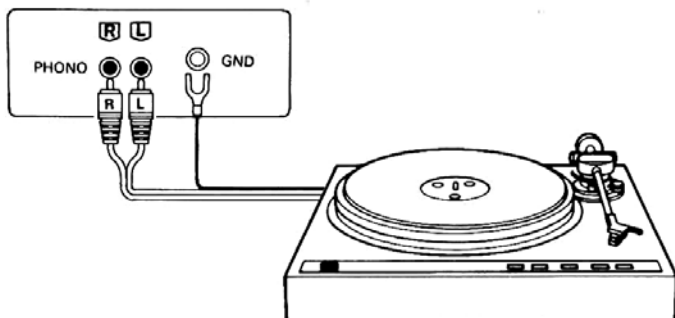


### スピーカーのインピーダンスについて

接続できるスピーカーのインピーダンスは、A、B別々に使用する場合は4Ω以上、2組(A+B)同時に使用する場合は8Ω以上です。これよりも低いインピーダンスのスピーカーを使用する場合は音量を控え目にしてください。大音量で長時間使用すると保護回路が働いたり、故障の原因になります。

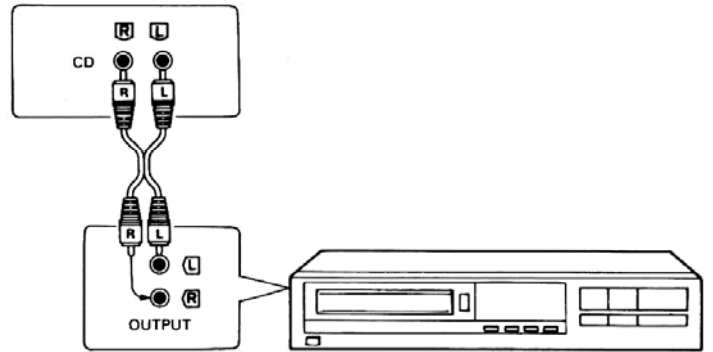
## ■ レコードプレーヤーの接続

レコードプレーヤーの出力コードをフォノ(PHONO)端子に接続します。出力コードのLプラグをL端子に、RプラグをR端子に接続し、アース線をアース(GND)端子に接続してください。



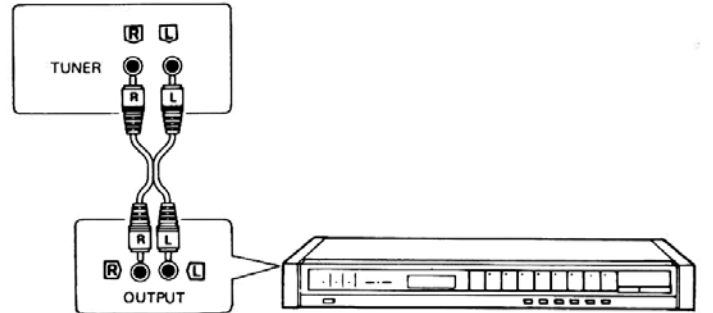
## ■ コンパクトディスクプレーヤーの接続

コンパクトディスクプレーヤーの出力(OUTPUT)端子とシーディー(CD)端子をピンプラグコードで接続します。



## ■ チューナーの接続

チューナーの出力(OUTPUT)端子とチューナー(TUNER)端子をピンプラグコードで接続します。

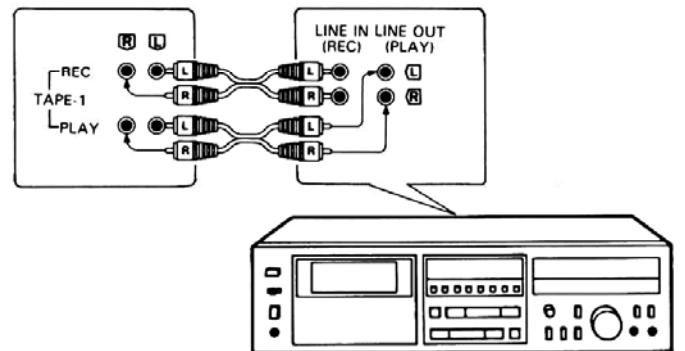


## ■ カセットデッキの接続

カセットデッキはテープ(TAPE)端子に接続します。テープ端子は2系統ありますので、2台のカセットデッキを接続して同時録音やテープコピーが行えます。

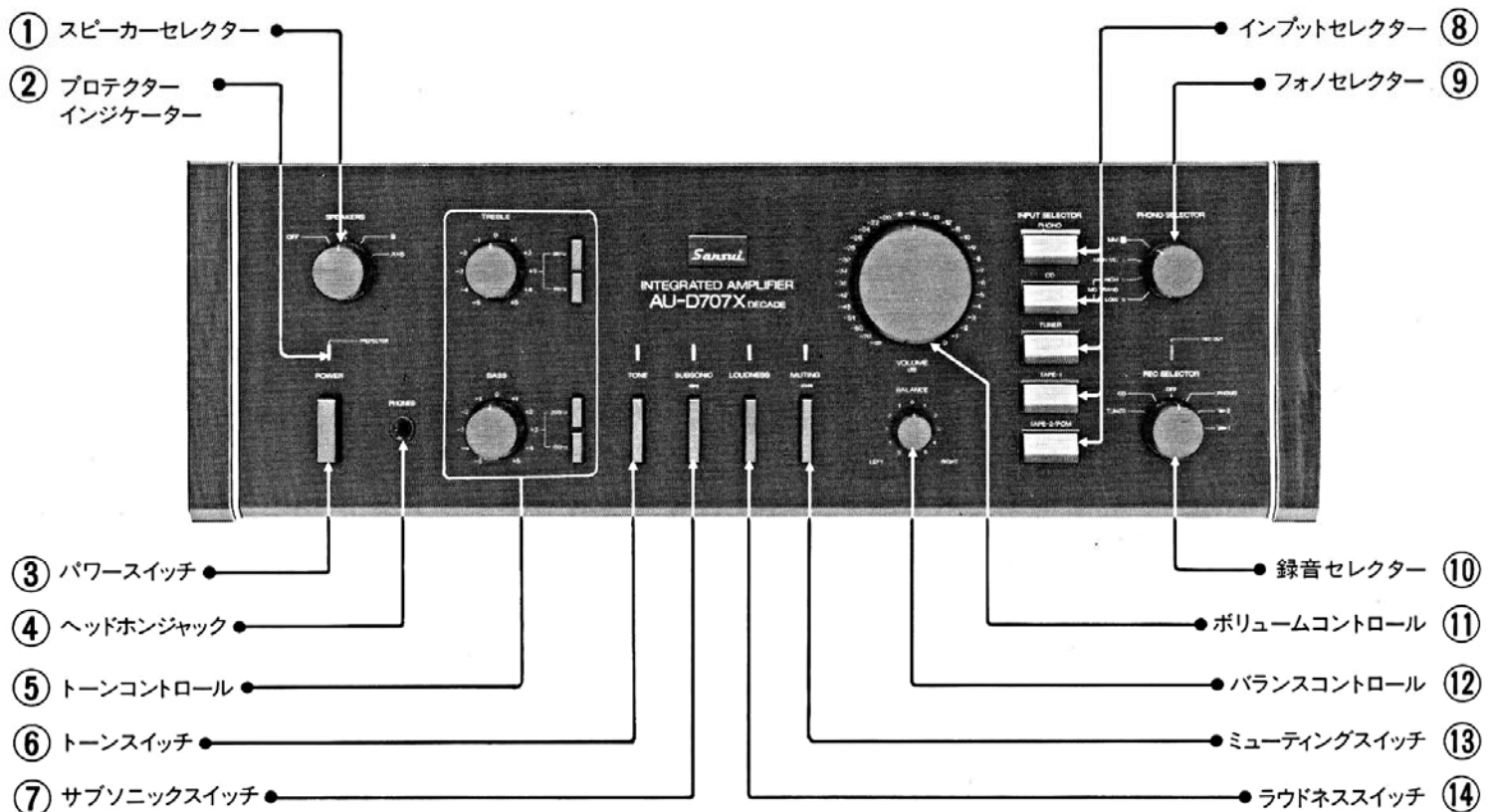
録音用の接続：カセットデッキの入力(LINE IN/REC)端子と録音(REC)端子をピンプラグコードで接続します。

再生用の接続：カセットデッキの出力(LINE OUT/PLAY)端子と再生(PLAY)端子をピンプラグコードで接続します。



\*テープ端子にPCMデジタルオーディオプロセッサを接続して使用することができます。この場合は、TAPE-2/PCM端子を使用し、上記と同様に接続してください。

# 各部の名称と説明



## ① スピーカーセレクトター (SPEAKERS)

お聞きになるスピーカーを選択するつまみです。  
 OFF……ヘッドホンだけで演奏をお聞きになりスピーカーから音を出さないとき。  
 A………スピーカー端子Aに接続したスピーカーから音を出すとき。  
 B………スピーカー端子Bに接続したスピーカーから音を出すとき。  
 A + B…スピーカー端子A, Bに接続した2組のスピーカーから同時に音を出すとき。

## ② プロテクターインジケーター (PROTECTOR)

電源が入るとこのインジケーターが点滅し、数秒後、点滅から常時点灯に変わり、アンプが動作状態になります。  
 また、使用中にプロテクター(保護)回路が働くと点滅に変わりアンプの異常を知らせます。このときはただちに電源を切り、原因(スピーカーコードの短絡など)を取り除いてください。  
 ●インジケーターが点滅している間はスピーカーから音が出ません。

## ③ パワースイッチ (POWER)

このスイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。

## ④ ヘッドホンジャック (PHONES)

ヘッドホン用出力端子です。ステレオヘッドホンで演奏を聞くときに、ヘッドホンのプラグをこのジャックに差し込みます。ヘッドホンを使用する際は、耳をあまり刺激しないよう適度な音量に調整して演奏をお楽しみください。  
 ●ヘッドホンを使用しないときは、プラグを抜いておいてください。

## ⑤ トーンコントロール (BASS/TREBLE)

TONEインジケーターが点灯しているときに、このコントロールつまみとスイッチを操作すると音質調整ができます。  
 トレブル (TREBLE) つまみは“0”の位置より右にまわすと高音が強まり、左にまわすと高音が弱まります。また、横のスイッチにより高音のコントロールが効きはじめる周波数を8kHzまたは4kHzに切り換えられます。  
 バス (BASS) つまみは“0”の位置より右にまわすと低音が強まり左にまわすと低音が弱まります。また、横のスイッチにより低音のコントロールが効きはじめる周波数を200Hzまたは100Hzに切り換えられます。  
 ●TONEインジケーターが消灯しているときは、周波数特性がフラットになりトーンコントロールは働きません。

## ⑥ トーンスイッチ(TONE)

トーンコントロールを操作して音質調整をするときにこのスイッチを押すとインジケーターが点灯して音質調整ができる状態になります。

もう一度押すとインジケーターが消え、トーン回路が切り離されて周波数特性がフラットになります。

## ⑦ サブソニックスイッチ(SUBSONIC)

このスイッチを押すとインジケーターが点灯し、可聴帯域外の低い周波数(16Hz)を6dB/octで減衰するサブソニックフィルターが働きます。ソリなどのあるレコードを演奏すると発生する超低域の雑音は、混変調ひずみの原因になり、音質に悪影響を与えますが、このフィルターで除去できます。

もう一度押すとインジケーターが消え、フィルターが解除されます。

## ⑧ インプットセレクター(INPUT SELECTOR)

お聞きになるプログラムソースを選択するスイッチです。

押すとスイッチ上部のインジケーターが点灯します。

PHONO……PHONO端子に接続したレコードプレーヤーを使用してレコードを聞くときに押します。

CD………CD端子に接続したコンパクトディスクプレーヤーを使用してコンパクトディスクを聞くときに押します。

TUNER……TUNER端子に接続したチューナーを使用して放送を聞くときに押します。

TAPE-1……TAPE-1端子に接続したテープデッキを使用してテープを再生するときに押します。

TAPE-2/PCM……TAPE-2/PCM端子に接続した2台目のテープデッキまたはPCMデジタルオーディオプロセッサを使用し、テープ再生またはPCM再生をするときに押します。

●スイッチは、必ず1つを確実に押してください。

## ⑨ フォノセレクター(PHONO SELECTOR)

レコードプレーヤーで使用するカートリッジの出力電圧に応じて切り換えるツマミです。

MM………MM(Moving Magnet)型などの高出力カートリッジを使用する場合。

HIGH MC……MC(Moving Coil)型カートリッジであるが出力電圧が高いもの(1mV以上)を使用し、あまり大きくない音量で聞く場合。

MC TRANS-HIGH……MC型などの低出力カートリッジであるが比較的出力電圧の高いもの(0.25mV)を使用する場合。

MC TRANS-LOW……MC型などの低出力カートリッジでさらに出力電圧が低いもの(0.1mV)を使用する場合。

●ゲインの切り換えと同時に入力インピーダンスも切り換わり“HIGH MC”が100Ωに、“MC TRANS-HIGH”が40Ωに、“MC TRANS-LOW”が5.3Ωになります。

## ⑩ 録音セレクター(REC SELECTOR)

テープに録音するプログラムソースを選択するツマミです。インプットセレクターの設定位置に関係なく、録音できます。TUNER……TUNER端子に接続したチューナーで受信した放送を録音するとき。

CD………CD端子に接続したコンパクトディスクプレーヤーを使用してコンパクトディスクを録音するとき。

OFF………録音を行わないとき。録音(TAPE REC)端子が信号経路から切り離され、テープデッキからの電気的な影響を受けません。

PHONO……PHONO端子に接続したレコードプレーヤーを使用してレコードを録音するとき。同時にフォノセレクターを正しくセットしてください。

1▶2………TAPE-1端子に接続したテープデッキからTAPE-2/PCM端子に接続したテープデッキに録音するとき。

2▶1………TAPE-2/PCM端子に接続したテープデッキからTAPE-1端子に接続したテープデッキに録音するとき。

\*“OFF”以外の位置にセットされているときは、REC OUTインジケーターが点灯し、録音が可能であることを示します。“OFF”の位置にするとREC OUTインジケーターは消えます。

## ⑪ ポリウムコントロール(VOLUME)

スピーカーやヘッドホンの音量を調整するツマミです。パネル面の目盛りは最大出力レベルを“0dB”として減衰量を表示してあります。“-∞”の位置で音量が最小になり、右にまわすほど音量が大きくなりますので時や場所に応じて最適な音量に調整してください。

## ⑫ バランスコントロール(BALANCE)

左右の音量バランスを調整するツマミで、右側の音量が小さいときは中央より右にまわし、左側の音量が小さいときは左にまわします。通常は、中央の“0”の位置にしておいてください。

## ⑬ ミューティングスイッチ(MUTING)

音量を20dB下げるスイッチです。一時的に音量を小さくするときにこのスイッチを押すと、インジケーターが点灯して音量が小さくなります。

もう一度押すと、インジケーターが消えて音量が元の大きさに戻りますが急に大きくなりますのでご注意ください。

## ⑭ ラウドネススイッチ(LOUDNESS)

人間の聴覚は、音量が小さくなるに従って低音と高音に対する感度が下がる性質があり、小音量時には低音と高音が不足したやせた音に聞こえます。小音量時にこのスイッチを押すとインジケーターが点灯し、低音と高音が適度に増強されて聴感上のバランスを保ちます。

もう一度押すとインジケーターが消え、ラウドネス回路が切り離されて周波数特性がフラットになります。

# 操作

## ■演奏を始める前に

演奏を始める前に、各ツマミの位置を確認してください。

※ボリュームコントロールは左にまわしきって音量最小“∞”の位置にします。

※バランスコントロールは“0”の位置(中央)にします。

※トーン(バス、トレブル)コントロールは“0”の位置(中央)にします。

※録音セレクターは“OFF”の位置にします。

※スピーカーセレクターはスピーカーを接続した端子に応じて“A”、“B”または“A+B”の位置にします。

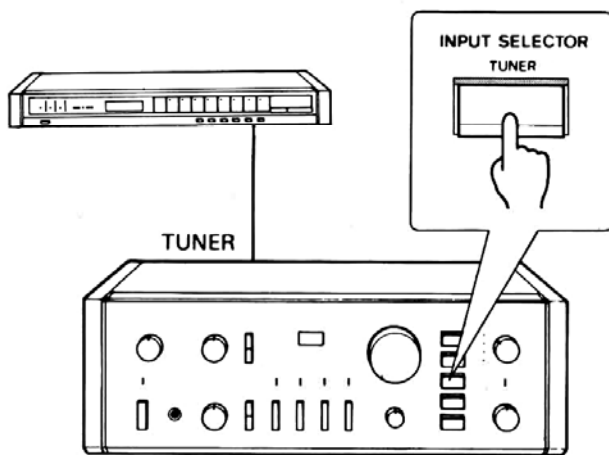
※トーン、サブソニック、ラウドネス、ミュートイングの各スイッチはインジケーターが消えている状態にしてください。

確認後、パワースイッチを押して電源を入れます。

PROTECTORインジケーターが点滅して数秒後、常時点灯に変わりアンプが動作状態になります。

## ■放送の受信

1. インプットセレクターのTUNERスイッチを押します。
2. チューナーを操作し、放送を受信します。
3. 音量や音質などを調整して放送をお楽しみください。



### ▷良好な受信のために

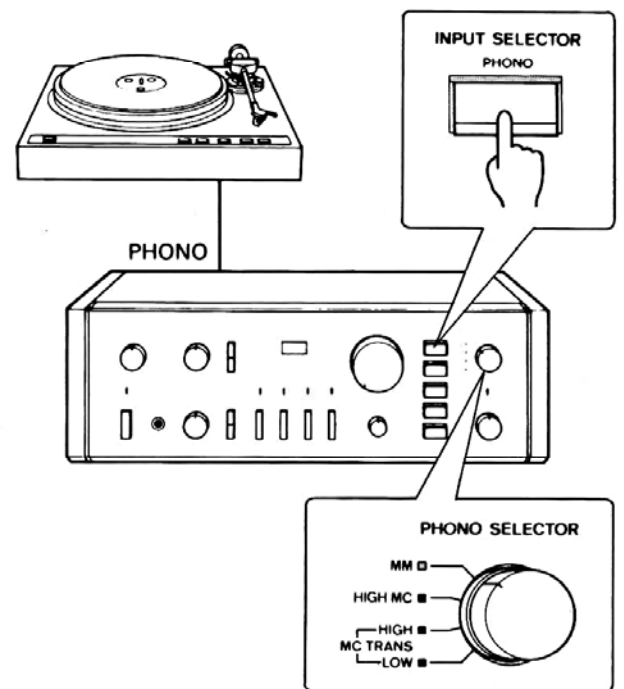
**FM放送の場合：**雑音の少ない快適なFM放送を受信するには電波状態に応じたFMアンテナを選んで、適切な場所に設置する必要があります。チューナーの取扱説明書などを参考にしてFM屋外アンテナを設けてください。

**AM放送の場合：**受信電波が弱いと他の放送局より音が小さくなり雑音が目立ちます。特に室内では屋外に比べて電波が弱くなります。雑音が気になる場合は次の対策をお試しください。

1. アンテナの位置を変えてみる。
2. コンクリートの建物の中で受信している場合は、設置場所を変えてみる。
3. ビニール被覆線をAMアンテナ端子に接続して、もう一方を屋外に伸ばす。

## ■レコードの再生

1. インプットセレクターのPHONOスイッチを押します。
2. 使用するカートリッジに合わせてフォノセレクターをセットします。  
MM：MM型などの高出力カートリッジを使用する場合。  
HIGH MC：MC型カートリッジであるが出力電圧の高いもの(1mV以上)を使用し、あまり大きくない音量で聞く場合。  
MC TRANS-HIGH：MC型などの低出力カートリッジの中でも比較的出力電圧の高いもの(0.25mV)を使用する場合。  
MC TRANS-LOW：MC型などの低出力カートリッジの中でもさらに出力電圧が低いもの(0.1mV)を使用する場合。
3. レコードプレーヤーを操作し、レコードを再生します。
4. 音量や音質などを調整して演奏をお楽しみください。



### MCカートリッジについて

MCカートリッジは出力電圧や出力インピーダンスの異なるものが大変に多いのが現状です。

フォノセレクターはゲインの切り換えと同時に入力インピーダンスも切り換わり、“HIGH MC”が100Ω、“MC TRANS-HIGH”が40Ω、“MC TRANS-LOW”が5.3Ωになります。

使用するMCカートリッジの内部インピーダンスによってはそのインピーダンスに合わせて切り換えることによりカートリッジの性能をより引き出せる場合があります。

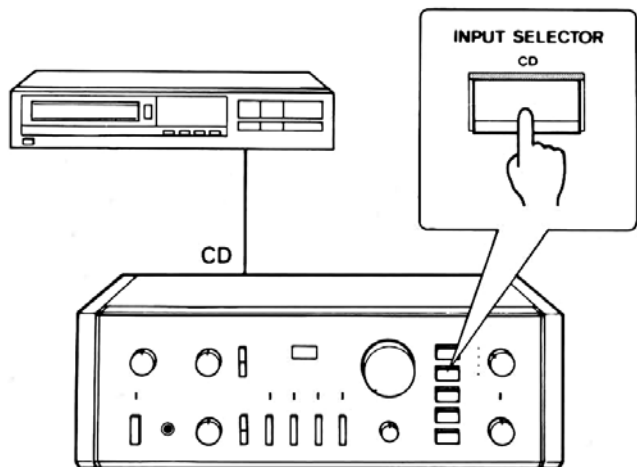
一度切り換えてご試聴してみてください。

また、比較的出力電圧の高いMCカートリッジをあまり大きくない音量で聞く場合はゲインはそれ程必要なく、MMのゲインを持つ“HIGH MC”の位置にセットしても充分に対応でき、増幅回路がシンプルとなるためにより良好な音質が得られる場合があります。



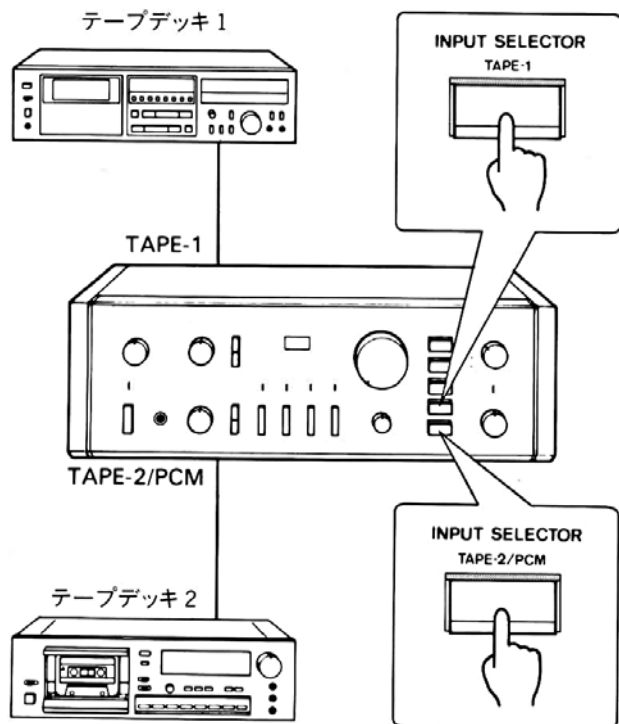
## コンパクトディスクの再生

1. インプットセクターのCDスイッチを押します。
2. コンパクトディスクプレーヤーを操作し、コンパクトディスクを再生します。
3. 音量や音質などを調整して演奏をお楽しみください。



## テープの再生

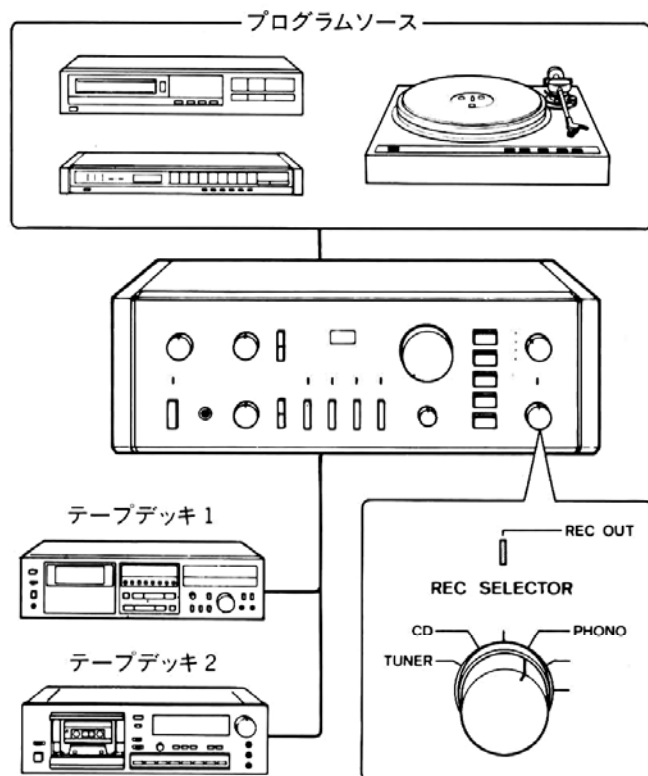
1. インプットセクターのTAPE-1またはTAPE-2/PCMのスイッチを押します。  
※TAPE-1端子に接続したテープデッキを使用する場合はTAPE-1を、TAPE-2/PCM端子に接続したテープデッキを使用する場合はTAPE-2/PCMを押してください。
2. テープデッキを操作し、テープを再生します。
3. 音量や音質などを調整して演奏をお楽しみください。



## テープの録音

放送やレコードなどのプログラムソースを録音(REC)端子に接続したテープデッキに録音できます。

1. 録音するプログラムソースに応じて録音セクターを切り換えます。  
レコードを録音するときは"PHONO"の位置に、コンパクトディスクを録音するときは"CD"の位置に、放送を録音するときは"TUNER"の位置にします。
2. プログラムソースの演奏を始めます。
3. テープデッキを操作して録音レベルを調整し、録音を始めます。



- ボリュームコントロールやトーンコントロールをまわしても録音する信号の音量や音質を調整することはできません。

## 録音モニター

録音モニター(録音中に録音された音を再生する)は、録音用と再生用のヘッドが独立している3ヘッドタイプのテープデッキをご使用の場合に行えます。

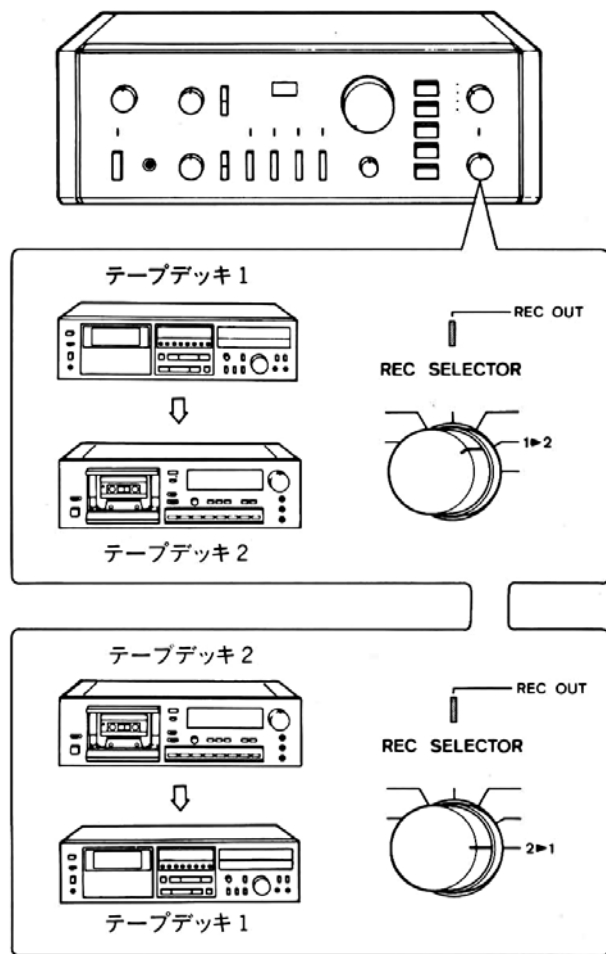
録音/再生兼用ヘッドを備えたテープデッキでは録音モニターはできません。

1. テープデッキ側のテープモニタースイッチを"TAPE"の位置にセットします。
2. 録音中のテープデッキに合わせてインプットセクターのTAPE-1またはTAPE-2/PCMのスイッチを押します。

### ■ テープからテープへのコピー

2台のテープデッキをご使用になれば、録音済みのテープから別のテープに録音しなおすテープコピーが行えます。

- 録音セレクターを“1▶2”または“2▶1”の位置にします。  
※テープデッキの1から2にコピーする場合は“1▶2”の位置に、テープデッキの2から1にコピーする場合は“2▶1”の位置にしてください。
- 再生用と録音用のテープデッキ2台を操作し、録音を開始します。

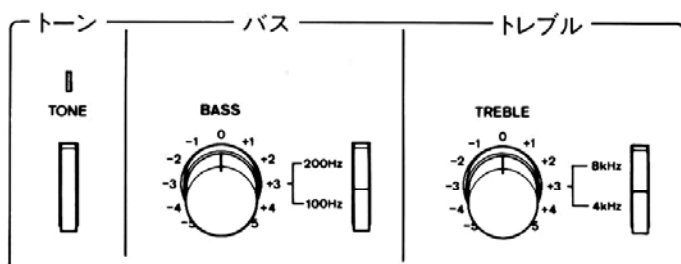


- テープコピー中に内容を確認したい場合は、インプットセレクターのTAPE-1またはTAPE-2/PCMのスイッチを押すとスピーカーで聞くことができます。
- テープコピー中に他のプログラムソースをスピーカーで聞くことができます。その場合はインプットセレクターでお聞きになるプログラムソースを選びます。

あなたが放送やレコード、テープから録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

### ■ トーンコントロールについて

トーンコントロールは、スピーカーシステムやカートリッジの特性、お部屋の状態による音の吸収、反射により変化した音質を補正したり、好みの音質に調整するときに操作します。トーンスイッチを押すと上部のインジケーターが点灯します。バスとトレブルのつまみをまわして音質調整をしてください。ベースなどの低音は、バスコントロールを中央より右にまわすと強まり、左にまわすと弱まります。シンバルなどの高音は、トレブルコントロールを中央より右にまわすと強まり、左にまわすと弱まります。



- TONEインジケーターが消えているときは周波数特性がフラットになり、トーンコントロールは働きません。
- バスとトレブルのターンオーバー周波数切換スイッチは必ず1つ押してください。

### ■ ステレオバランスについて

ステレオバランスは、左右のスピーカーの置き方や能率の違い、家具の配置などによって影響を受けます。

左右のスピーカーの音量が異なり、再生音が片寄って聞こえる場合はバランスコントロールでステレオバランスの調整をしてください。

バランスをとるには、ふだん聞いている音量でモノラルのプログラムソース(AM放送やモノラルレコード)を演奏し、バランスコントロールをまわして音声両スピーカーの中央から聞こえるように調整します。

# トラブルと修理依頼

## ☐ サービスの依頼をする前に

アンプの故障と思われる症状の中には、使い方や他の装置が原因の場合があります。

サービスの依頼をする前に、もう一度この取扱説明書をよくお読みになり、接続と操作を確かめてください。

### 音が出ない

- 電源コードが抜けていませんか。  
プレーヤー、チューナー、テープデッキなどもしらべる。
- スピーカーコードがはずれていませんか。  
アンプ側、スピーカー側の両方をしらべる。
- ピンプラグコードがはずれていませんか。  
プレーヤー、チューナー、テープデッキなどもしらべる。
- プロテクターインジケーターが消えていませんか。
- プロテクターインジケーターが点滅している。  
スピーカーコードの(+)と(-)が接触していませんか。
- ボリュームコントロールが音量最小の位置になっていませんか。
- スピーカーセレクターが"OFF"の位置になっていませんか。
- インプットセレクターは正しくセットされていますか。

### 片側から音が出ない

- 接続コードの片側がはずれていませんか。
- バランスコントロールが"LEFT"か"RIGHT"の位置になっていませんか。

### 再生音が不自然で音像が定位しない

- スピーカーの極性(+, -)を間違えて接続していませんか。

### 音質調整ができない

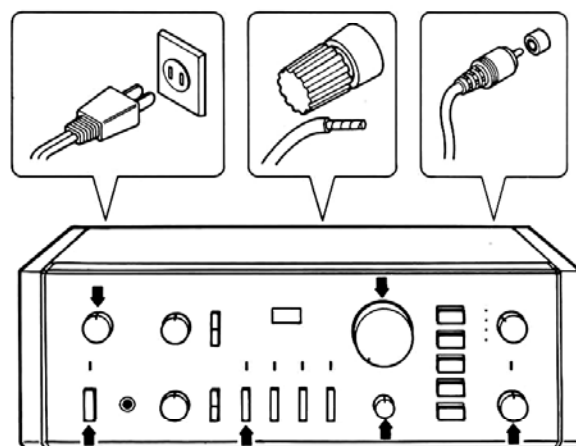
- トーンインジケーターが消えていませんか。

### 雑音が多い

- ピンプラグコードやスピーカーコードが抜けかけていませんか。

### 録音ができない

- 録音セレクターが"OFF"の位置になっていませんか。



## サービスの依頼

確認(対策)しても正常に戻らず、アンプの故障と考えられる場合は電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げになった販売店または最寄りの当社サービス窓口(別添サービスネットワーク参照)に次の事項をご連絡ください。  
(購入して1年以内の場合は、保証書を提示してください。)

- お名前、住所、連絡先電話番号
- 型名……ステレオプリメインアンプ: AU-D707X DECADE
- 故障の内容……できるだけ詳しくお知らせください。
- お買い上げ年月日……○年○月○日
- ご自宅までの道順と目標/ご希望訪問日時

# 規格

## 帯域実効出力(10Hz~20kHz, 両チャンネル同時動作)

8Ω.....130W+130W

6Ω.....160W+160W

## 全高調波歪率(10Hz~20kHz)

8Ω(実効出力時).....0.003%以下

6Ω(1/2実効出力時).....0.005%以下

## 混変調歪率(60Hz:7,000Hz=4:1, SMPTE法)

8Ω(実効出力時).....0.003%以下

## ダンピングファクター(新IHF, 20Hz~20kHz)

6Ω.....100

## エンベロープひずみ.....測定限界値以下

## TIMひずみ(Sawtooth法).....測定限界値以下

## スルーレイト.....±200V/μsec(6Ω)

## ライズタイム.....0.5μsec

## 入力感度/入力インピーダンス(1,000Hz)

PHONO(MC TRANS-LOW).....100μV/5.3Ω

PHONO(MC TRANS-HIGH).....250μV/40Ω

PHONO(HIGH MC).....2.5mV/100Ω

PHONO(MM).....2.5mV/47kΩ

TUNER, CD.....150mV/47kΩ

TAPE PLAY-1, 2.....150mV/47kΩ

## 最大許容入力(1,000Hz)

PHONO(MC TRANS-HIGH, 全高調波歪率:0.1%).....25mV

PHONO(MM, 全高調波歪率:0.01%).....300mV

## 出力電圧/出力インピーダンス(1,000Hz)

TAPE REC-1, 2.....150mV/600Ω以下

## 周波数特性

PHONO(MM)

(RIAA偏差).....20Hz~300kHz±0.2dB(REC OUT)

TUNER, CD.....DC~300kHz $\pm$  $\frac{0}{3}$ dB

TAPE PLAY-1, 2.....DC~300kHz $\pm$  $\frac{0}{3}$ dB

## SN比(Aネットワーク, ショートサーキット)

PHONO(MC).....80dB以上

PHONO(MM).....90dB以上

TUNER, CD.....110dB以上

TAPE PLAY-1, 2.....110dB以上

## チャンネルセパレーション(1,000Hz)

PHONO(MC).....50dB以上

PHONO(MM).....70dB以上

TUNER, CD.....85dB以上

TAPE PLAY-1, 2.....85dB以上

## トーンコントロール

BASS最大変化量.....+10dB, -10dB(20Hz)

(ターンオーバー周波数:200Hz, 100Hz)

TREBLE最大変化量.....+10dB, -10dB(20kHz)

(ターンオーバー周波数:8kHz, 4kHz)

サブソニックフィルター.....16Hz(-3dB)6dB/oct.

ラウドネス(音量:-30dB時)

.....+8dB(50Hz)/+6dB(10kHz)

オーディオミューティング.....-20dB

負荷インピーダンス.....4~16Ω

電源電圧.....100V

電源周波数.....50Hz/60Hz

定格消費電力(電気用品取締法).....320W

寸法.....幅466mm×高さ161mm×奥行431mm

重量.....21.5kg(本体のみ)

※改良のため, 予告なく意匠, 仕様の一部を変更することがあります。



山水電気株式会社

本社 東京都杉並区和泉2-14-1(〒168)